

社会・地理歴史・公民ワーキンググループ(第7回)報告

「主権者教育の課題と今後のあり方」

2026年4月24日(金)
桑原敏典(岡山大学)

【報告内容】

1. 現在の主権者教育の課題
2. 主権者教育改善の方向性
3. 中学校社会科、地理歴史科、公民科における主権者教育のあり方
4. 主権者育成の視点からの公民科の内容構成と方法
5. 小中高一貫の主権者育成の原理と方法
6. 主権者教育の方法の改善(1): 主権者育成における思考力、判断力の育成
7. 主権者教育の方法の改善(2): 学校の教育活動全体を通じた主権者育成
8. 主権者教育の方法の改善(3): 地域社会との連携に基づく主権者育成

現在の主権者教育の課題

1. 目標の問題

投票率の改善のため、義務としての投票の重要性を理解させ、投票への意欲を高めることが主権者教育の目的とされている場合もある。

2. 内容の問題

模擬投票等、選挙に関わる内容を含むことが必要不可欠と考えられている。

3. 方法の問題

投票への意欲を高めるという目標を達成するため、生徒が投票行為等を行う体験的な活動を中心に学習活動が構成される。



主権者教育は、選挙に関わる特別な教育であるため、学校のカリキュラムに特別に付加されるものであり、学校においては社会科または公民科担当の教員による、あるいは選挙管理委員会などの外部機関によって専門的に実施されなければならないという誤解

主権者教育改善の方向性

1. 目標の改善

主権者教育は、「主権者になる」ため、「主権者を育てる」ための教育である。「主権者を育てる」ために必要な、あらゆる教育活動の目標概念である。特別な教育活動を指すものではなく、**教育活動を見直し、改善するための視点である。**

2. 内容の改善

「主権者になる」ため、「主権者を育てる」ために必要な内容すべてを含み、学校の全ての教育活動に関わる内容は、主権者教育につながる。内容が何かは問題ではなく、学習者が、**主権者になるために必要と意味づけられること**が重要。

3. 方法の改善

体験的な活動そのものが重要なのではなく、**体験的な活動の中で学習者自身がどのように考え、判断したか、それが主権者としてふさわしいものであったかを振り返ることが重要。**

中学校社会科、地理歴史科、公民科における 主権者教育のあり方

【改善の方向性】

事象、出来事の学習から仕組みや制度の背後にある価値を踏まえた、問い(課題)の探究へ＝民主主義観の形成

- (1)仕組みや制度の成立にいたる葛藤や対立の探究(公民的分野、公民科)
- (2)異なる時代や異なる国による社会の仕組みや制度の比較探究(地理・歴史的分野、地理歴史科)

主権者育成の視点からの公民科の 内容構成と方法

【改善の方向性】

民主主義的な仕組みや制度をめぐる価値探究から、価値葛藤へ。

(1)より良い社会の仕組みや制度を構想するための選択・判断の基準
(価値＝民主主義観)の形成(「公共」)

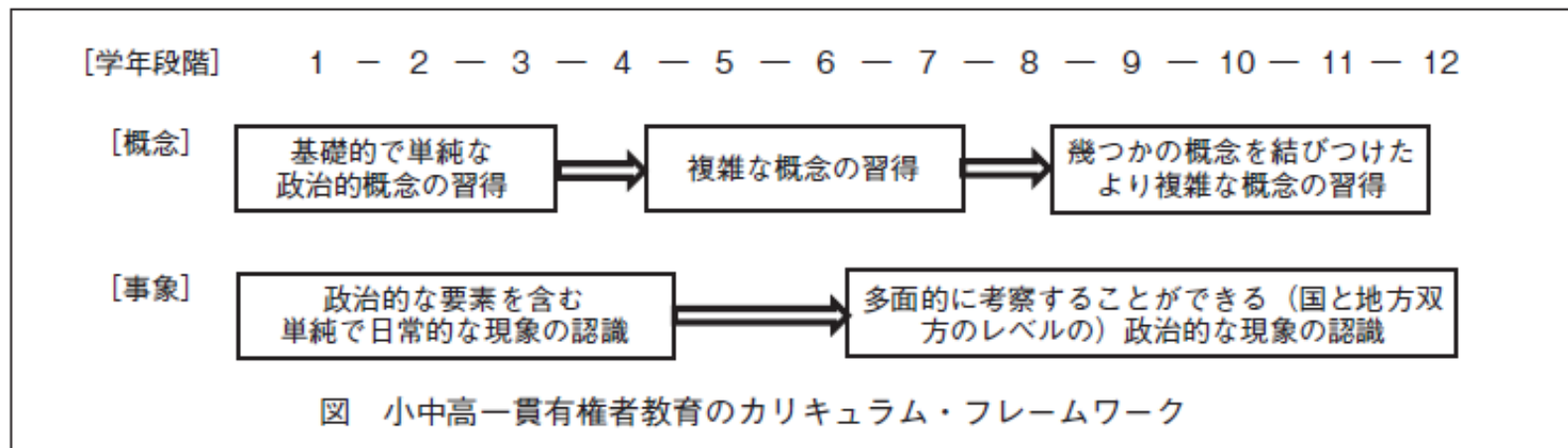
(2)より良い社会の仕組みや制度をめぐる葛藤や対立を通して選択・判断
の基準(価値＝民主主義観)の見直し(「倫理」「政治・経済」)

小中高一貫の主権者育成の原理と方法

【改善の方向性】

小学校段階から民主主義的な価値について学び、自由や権利などといった価値に基づいて社会の仕組みや制度について語る力を育成

(1) 選択・判断の基準(価値・概念)の体系的な育成



(2) 人の行為の意図の理解から、選択・判断の基準の理解へ

① 日常の現象から、自由や権利といった選択・判断の基準(価値)を捉えさせる学習

② 自由や権利といった選択・判断の基準(価値)から、社会生活のルールや決まりを説明する学習

主権者教育の方法の改善(1):主権者育成 における思考力、判断力の育成

【改善の方向性】

- (1)「～べき」を考えさせる学習から、「～べきか」を考えさせる学習へ
- (2)メリット・デメリットの量的比較に基づく意思決定から、考え方や価値観の一致に基づく意思決定へ

主権者教育の方法の改善(2):学校の教育活動 全体を通じた主権者育成

【改善の方向性】

主権者育成という視点から全ての教科を含む、学校のあらゆる教育活動を見直し、学習者が主権者になるために必要と実感できる学習を構成

(1)試験や進学のためではなく、学校外の社会にも通じる価値によって裏付けられる学習を

(2)内容や方法による連携ではなく、主権者育成という目標に基づく連携を

《社会科と特別の教科 道徳、特別活動の連携の例》

中学校第三学年「ボランティアを考える」

第一次 「特別の教科 道徳」におけるボランティアの学習

第二次 ボランティアが必ずしも現地で受け入れられなかった事象に関する社会科の学習

第三次 本当に被災地の人のためになるボランティアの実践を計画する特別活動の学習

主権者教育の方法の改善(3): 地域社会との連携に基づく主権者育成

【改善の方向性】

外部人材が教師に代わる専門家として子供の学習に介入するのではなく、地域社会をともに構成している市民として子供と共に学ぶ存在として関わるような学習へ

《外部人材と子供の熟議を促す社会科》

中学校社会科地理的分野「地域に届けるハザードマップをつくろう」

パート1 ハザードマップの課題を知る

パート2 オリジナルのハザードマップの作製

パート3 専門家(消防士)の作ったハザードマップとの比較: 専門家との熟議

パート4 専門家の視点と自分たちの視点のそれぞれの良さの確認(中学生の意見も反映したハザードマップ)

【参考文献】

- ・岩崎圭祐・川添雅人・桑原敏典(2025)「小学校政治学習における模擬市長選挙プログラムの開発 — 「政策カード」を活用した公約づくりと模擬選挙の提案 —」『岡山大学大学院教育学研究科研究集録』190号、pp.85-94.
- ・桑原敏典(2023)「知的障害のある子供に対する主権者教育の原理の構築—自立的意思決定を保障するプログラム開発のためのフレーム・ワークの構築を目指して—」『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』56号、pp.1-16.
- ・桑原敏典(2022)「高等学校公民科「公共」新設の意義と実践上の課題：主権者育成の視点から」鳴門社会科教育学会『社会認識教育学研究』37号、pp.1-10.
- ・桑原敏典・岩崎圭祐(2021)「選挙に対する見方・考え方の育成を目指した中学校社会科授業開発研究」『岡山大学大学院教育学研究科研究集録』178号、pp.13-22.
- ・井上昌善(2021)「外部人材と子供の熟議を促す社会科授業構成の原理と方法—地理的分野「地域に届けるハザードマップ」の開発と実践を通して—」『社会科研究』第95号、pp.1-12.
- ・桑原敏典(2018)「主権者育成の視点から見た中等公民教育の課題と改革への展望」『社会系教科教育学研究』30号、pp.51-58.
- ・桑原敏典編(2017)『高校生のための主権者教育実践ハンドブック』明治図書.
- ・フレッド・F・ニューマン著/渡部竜也・堀田諭訳『真正の学び/学力 質の高い知をめぐる学校再建』春風社.
- ・桑原敏典(2016)「第9節 学習者の多様性を踏まえた市民性教育の実現—なりたい市民になるための社会科—」唐木清志編著『「公民的資質とは何か」—社会科の過去・現在・三浦を探る—』東洋館出版社.
- ・桑原敏典(2016)「小中校一貫有権者教育プログラム開発の方法(2)—「選挙」をテーマとする中学校社会科・高等学校公民科の単元開発を通して—」『岡山大学大学院教育学研究科研究集録』第162号、pp.89-97.